

いちげ 一夏会報

No.63



平成25年11月1日

発行：鶴見大学

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3

TEL.045-574-8622・3(ダイヤルイン)

http://www.tsurumi-u.ac.jp



鶴見大学学長
木村 清孝

「風鈴の頌」のこと

今年は、ことさらに暑い夏でした。司書・司書補講習を無事に終了された皆さん、お疲れ様でした。一事を成し遂げた満足感に浸っておいでのことです。心から喝采を送ります。

作られた「風鈴の頌」というもので、訓読の形で示しますと、

渾身、口に似て、
虚空に掛り、
東西南北の風を
問わず、

一等、他と、
般若を談ず。

滴丁東了 滴丁東
となり。 「渾身」は「全身」。「一等」は「等しく」の意です。また、「般若」は、もとの意味は「根本の智慧」のことですが、ここではそのような内的なものに限定されず、むしろ「リアルに現れている真実そのもの」を意味します。さらに、「滴丁東了 滴丁東」は風鈴が風に揺られて発する音を表す擬声語です。

そこで、一応の意味を取って現代語訳すれば、
「私という」風鈴は「まるで全身が口と

その詩とは、日本曹洞宗の初祖道元禪師の師、中国・宋代の如浄禪師が

なつて、大空にかかっている。

四方八方、どつちから風が吹こうと、無頓着。

風と一緒になつて、
真実そのものを語り
つくしている。

滴丁東了 滴丁東、と。とでもなるでしょうか。

風鈴をどのように見、その音から何を聴き取るかは、私たち一人一人の問題です。しかし、如浄禪師のように、ここまで深く受け止めることはできないとしても、せめて一時でもその音に引き込まれ、自他一如の真実の世界に触れたいものです。

なお、最後の擬声語の音は、現代中国語(北京語)では「ティーティントンリャオ ティーティントン」ですが、宗門では「テ

イチントンリャン ティチントン」、あるいは「チツチントウリョウ チツチントン」と読まれてきたようです。日本では、風鈴の音は、一般に「チリンチリン」と表現されます。それに比べて、この表音は、とても微妙で細やかですね。私たちは、このことにまず驚かされます。

ます。これを聞いた如浄禪師は、「少し褒めすぎ、喜びすぎではないの？」との思いもありませんが、「笑いを含んで」道元禪師の理解の深さを讃えられた、といわれています。

道元禪師は帰朝後、自らが確信した禅の世界を生涯にわたって説き示されました。この「風鈴の頌」は、主著『正法眼蔵』の「摩訶般若波羅蜜」の巻でも取り上げられ、「この頌には、般若の全体が説き尽くされている」などと論じられています。また『永平広録』によれば、禪師はこの頌にびったりと寄り添うような頌を自ら作っておられます。

秋の深まりの中、ご一緒に、心静かに、改めて風鈴の音に想いを馳せたいと思います。

「二夏」の努力は 未来への出発点



鶴見大学司書・司書補講習
主任教授

原田 智子

司書あるいは司書補の資格取得という明確な目標に向かって、充実した「一夏」を過ごされた講習生の皆様は、今いかがお過ごしでしょうか。記録破りの猛暑であった今夏、毎朝午前九時からの授業に出るということは、並大抵のことではなかったことでしょう。自分自身の強い意志と健康管理はもちろん、ご家族の支えや協力、講習生同士の励まし合い等があったこそだと思います。協力してくださった周りの方々への感謝と共に、目標に向かって頑張った自分を褒めてあげていただきたいと思えます。

四年制大学で二年間あるいは四年間かけて学ぶ内容を前提としており、それを二箇月で学習するので、そこから、連日午前九時から午後四時過ぎあるいは午後六時近くまでびっしりとしたスケジュールの中、体調管理が大変であったことと思えます。

この講習では司書あるいは司書補の資格取得が目標ですが、この会報の名称である「一夏」に、鶴見大学の司書・司書補講習の講習生となったことが縁となり、新たなヒューマンネットワークも築かれたことと思えます。私は八月下旬に講義科目を、九月に演習科目を担当しましたが、八月の時点よりも九月

にお会いした時には、お友達との絆が深まっていることを感じました。さらに、講習を担当しました講師の方々との新たな交流も生まれたことと思えます。図書館学のそれぞれの分野で活躍されている先生方との出会いも、この講習をきっかけに深めていただければと思います。新たな人との出会いこそ、講習を受けたことによる大きな財産です。

図書館の語源は「図書の置き場所」という意味ですが、いろいろな授業で感じられたように、デジタル時代の図書館では紙メディアも電子メディアも扱っています。情報を蓄積・保存し提供するばかりでな

く、情報発信を積極的に行い、諸般の事情で来館できない利用者にも情報を提供する時代になりました。このように多様化する情報ニーズに適切に 대응される専門職としての図書館員の役割は、今後ますます期待されることでしょう。今まであまりパソコンを使ったことが無かった方も、図書館業務にパソコンが不可欠であることを十分ご理解いただけたと思います。パソコン初心者講習で学習した内容はその入口ですので、是非これをきっかけにさまざまなソフトを使いこなせるようになっていただければと思います。

現在図書館で仕事をされている方々の中には、講習で勉強した知識や技術を現場で活かしていただけたら嬉しく思います。現場での経験と講習で学習した知識や技術が融合して、情報専門職としての司書あるいは司書補の仕事に一層の磨きがかかり、図書館利用者へのサービスが今まで以上に充実したものになれば、講師一同こんなに嬉しいことはありません。また講習を受けた

ことがきっかけで、これから新たに図書館での仕事に従事される方もいらっしゃると思います。何事も同じであると思いますが、学習した知識や技術に経験等が加わって初めて図書館員としての良いサービスが行えると思います。

話は変わりますが、この夏私はIFLA（世界図書館連盟）が毎年開催する国際会議に出席するため、シンガポールに行ってきました。世界中の図書館員や図書館情報学の教員など三千七百五十名が会議に参加しました。日本からは約四十名が参加し、本講習の先生方も七名が参加しました。滞在中に、シンガポール国立図書館、公共図書館、大学図書館などを見学する機会を得ました。シンガポールの図書館は、いづれも自動貸出・自動返却が徹底しており、日本でも最近建設された図書館ではICタグを導入した自動貸出が多く採用されるようになってきています。

が、自動返却はまだ少ないようです。昨年のIFLA開催地はフィンランドでしたが、ここでも自動貸出・自動返却が主流になっていました。日本においても遠からずそのような時代が来るでしょう。シンガポールの公共図書館の印象は、図書館員が入口のカウンターに二、三人しかいないことです。チャイナタウンの図書館は一人も見かけませんでした。事務室で返却図書の整理をしているスタッフの方はいましたが、一見無人図書館かと思いました。利用者が困ったときは、CybrarianというATMのような設備（左写真）が各図書館にあり、電話でコールセンターに相談する仕組みになっているのです。図書館員の役割や、人間でなければできないサービスとは何かということ、改めて強く感じているところです。



Cybrarian

講習を終えられた皆さんへ



共立女子大学
教授
下村 陽子

も、講習で身に付けた知識や技術はあらゆる学習や仕事の基盤となるものであるはずです。司書資格の取得は図書館の世界の入口に立ったに過ぎないことかもしれませんが、そこからすべてが始まるとも言えます。司書講習で得たものを人生の糧にそれぞれの道で活躍されまことを祈っております。

鶴見大学の司書・司書補講習に参加して充実した夏を過ごされた受講生の皆さんは、それぞれの日常に戻って落ち着かれた頃かと思えます。この夏は、短くまた長い夏だったのではないのでしょうか。無事資格を取得された方も、残念ながら全ての単位取得には至らなかった方も、同じ様に厳しい暑さの中最後まで講習を乗り切ったという達成感を得られたことと思います。

次から次へと新しい領域について学び単位を取得していくしなければならず、緊張の日々が続いたことでしょう。大学・短期大学の司書課程であれば、普通は二〜三年をかけて徐々に学んでいく内容を短期間に凝縮した形で学ぶことになるため、ちよつと立ち止まって確認したり、理解不足な部分を補ったりしながら進めるということが、学ぶ側にとつても教える側にとつても難しくなります。

年受講生の方々に接する度に本当に素晴らしいと感じます。一方で、一定の期間一つのことに脇目も振らず集中できる機会はそれ程ないのではないのでしょうか。それによつて得られた充実感や達成感は貴重なものに違いありません。その間、年齢や経歴が様々な方達と同じ目的をもつて集まり、一緒に学んだということは得難い経験であつたろうと思います。すでに図書館の仕事について一定の経験がある方もあれば、全く初めて図書館情報学について学ぼうという方もあ

り、講習を受ける動機や目指すところも様々だと思います。図書館の仕事を一生涯の仕事にしようと考えている方もあれば、可能な資格は取得しておこうという方もあるでしょうが、互いに励まし合ひまた刺激し合うことで、より勉学の内容を深めることができたはずですよ。

私は「情報資源組織論演習(目録)」を担当させていただきましたが、教室における質問や意見の交換によつて、自分の気付かなかつたことに気が付き、異なる発想の仕方を知るといった機能が果たされていったと感じています。さらに資格取得という目的を超えて志を同じくする仲間や大切な友人を得た方も少なからずいたのではないのでしょうか。それらは一生の財産になるものです。

多くの方が、講習によつて新しい知識とその結果としての資格を取得された訳ですが、ご存じの通り、司書資格を持つていても図書館で正規の職を得ることは困難なのが実状です。短期大学や大学の司書課程、司書講習、通信教育等の方法で毎年多くの方が資格を取得するのに対し、専門職としての募集は大変に少なく、需要と供給のアンバランスが長年問題になっています。図書館の仕事の在り方自体が変化して来ていることもあり、この状況は急には改善されそうにありません。図書館で働く事を目指す方にとつて決して容易な道ではありませんが、この道を志そうという方を心から応援させていただきます。よろしくお願いいたします。



「いつか、どこかで、 お会いしましょう」



筑波大学
講師
松林 麻実子

サービスが現在のようないろいろな方向の扉を一つ一つ開けて、先へと続く道があることを確認しながら、授業をしたつもりです。今後、さらに勉強の必要性が出てきたときに、ぜひその扉の向こうへ一歩を踏み出してみてください。講習の向こう側には「図書館情報学」という学問領域も拡がっています。勉強すべきことはたくさんありますが、興味があることから一つずつクリアしていっていただけたら、と思います。最後に、毎年講習が終わってからは、ご連絡をくださった方がいらっ

の授業はわけがわからないうちに終わりましたが、今回はとてもよくわかりました」と笑っていました。私も笑っていらっ

ここ数年、毎年のように「史上最高の暑さ」というニュースがもたらされますが、今年もまた、非常に暑い夏でした。そのような過酷な環境の中、受講生の皆さんが二か月間にわたる講習を無事に終えられたことに、心からお喜び申し上げます。私は司書補講習の前半に行われる「図書館サービスの基礎」を担当しておりますので、毎年自分の授業が終わってかなり経ってから、大学の方から講習終了の報告をいただくのですが、「無事終了」との一報を得るたびに、自分のことのようにほっ

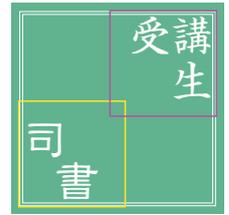
とします。巷では、長期休暇をとり、仕事や生活のペースを緩やかにして過ごすこの時期を資格取得に費やす（捧げる、と言っても良いかもしれませんが）ということは、本当に大変なことだと思っております。ですが、だからこそ、少しでも意味のある授業を、少しでも役に立つ授業を、受けて帰っていただきたい、と心から思います。

は、現在でも何ら変わりはありません。図書館という存在は皆、館種の如何を問わず、周囲の環境と密接に関わっています。国内でも海外でも、魅力的な図書館を運営しているところには必ず、文化や社会に対して感度の高いアンテナを持っている図書館員が存在し、彼らが現代社会と図書館サービスのとをうまく関連付けているように思います。

「書物と私」的な閉じた発想や、図書館という空間だけを意識した思考は、おそらくこれからの図書館にとってプラスにはなりません。日本の図書館

「書物と私」的な閉じた発想や、図書館という空間だけを意識した思考は、おそらくこれからの図書館にとってプラスにはならない物語のように、い





熱い夏、ふたたび
久米 由紀子

この夏は私にとって鶴見で過ごす二度目の夏でした。

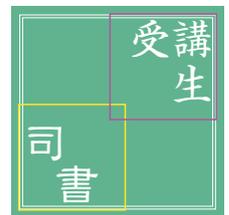
と、いうのは、四年前に司書補講習を受講し、司書補として従事する期間がやっと規定に達して、今年、念願の司書講習に通うことができたからです。

最初は公共図書館に働き始めて二年目に司書資格を持つ先輩から「図書館で働くなら資格を取ったほうがいい」とアドバイスを受けたのがきっかけです。働き始めた頃、貸出業務だけでない多岐にわたる仕事の多さに驚いたことと面白くもありやりがいを感じながらも迷いながら仕事をしていくことを思い出します。司書補講習で学んだことはその後、私の働き方の道しるべになりました。司書講習は司書補講習より更に過酷でした。月

土曜日までびっしり授業です。専門性の高い科目が多く、課題や試験、演習に追われる毎日でした。ランチ後の眠気に襲われる三時限目やもう限界と思つた五時限目にあれこれ策を講じて頑張つたこと今思い返すと笑話でしょうかありません。先生方は個性豊かで授業の進め方もまたそれぞれ。知識や技術、経験と意思をこめた熱い授業はたくさんのものを吸収できました。また、折々で話してくださる図書館の現状、最新の図書館事情、未来像などとてもリアルで貴重な話は、ここに来なければ聞くことのできなかつた経験です。授業を通してコンピュータやネットワーク技術の発展とともに図書館サービスも広がりをみせていることを実感しました。私にとって苦手意識の強い分野で

すが図書館員として知識と技術は必須と感じたので学んだことを生かしこれからは日々の研鑽を継続して克服していけたらと思います。そして、二ヶ月間をひたすらに頑張つてやり遂げることができたのは教室で同じ時間を過ごした仲間がいたからです。共感し励まし合える仲間がいるのは本当に心強かったです。毎日を先生方の指導に導かれ、事務室の方々に助けられ、警備や清掃の方に元気をもらい、朝センターホールで交わすおしゃべりに和み、通つたパン屋さんで癒され家族、職場関係者、友人の応援があつて乗り切ることができました。心から感謝します。ありがとうございました。

イギリスが新王子誕生で大騒ぎだった頃、僕も、ジョージと名付けられました。機器の使い方でも何人かの先生のお手伝いをしたのですが、加藤好郎先生の「ジョージとでもお呼びしましょうか？」の一言以来、同じような場面になると、みなさんの視線が……。(ホント機械に詳しくはないのですが、でも、おかげで名前よりジョージと覚えられたりして、素敵な思ひ出になりました。加藤先生に感謝です。試験は苦手でしたが、勉強するのは楽しくて、二か月はあつたという間。ふと気づけば、大学の周りには赤トンボが舞っていました。



『ジョージだった
僕の夏』
杉崎 真澄

「ジョージとでもお呼びしましょうか？」の一言以来、同じような場面になると、みなさんの視線が……。(ホント機械に詳しくはないのですが、でも、おかげで名前よりジョージと覚えられたりして、素敵な思ひ出になりました。加藤先生に感謝です。試験は苦手でしたが、勉強するのは楽しくて、二か月はあつたという間。ふと気づけば、大学の周りには赤トンボが舞っていました。

「ジョージとでもお呼びしましょうか？」の一言以来、同じような場面になると、みなさんの視線が……。(ホント機械に詳しくはないのですが、でも、おかげで名前よりジョージと覚えられたりして、素敵な思ひ出になりました。加藤先生に感謝です。試験は苦手でしたが、勉強するのは楽しくて、二か月はあつたという間。ふと気づけば、大学の周りには赤トンボが舞っていました。

出された言葉がありました。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、ゆかいなことをいっそうゆかいに」(井上ひさしさんの言葉)

この言葉は、利用者として図書館と結ぶ役割を果たす図書館員の姿勢(立ち位置)に相応しいのではと、自分に、しつくりきいてみます。二か月間お世話になった多くの方々への感謝とともにジョージとしての夏は終わりましたが、僕の始まり(立ち位置)はここからです。みなさんの始まりはどんな始まりになりましたか？

「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、ゆかいなことをいっそうゆかいに」(井上ひさしさんの言葉)

この言葉は、利用者として図書館と結ぶ役割を果たす図書館員の姿勢(立ち位置)に相応しいのではと、自分に、しつくりきいてみます。二か月間お世話になった多くの方々への感謝とともにジョージとしての夏は終わりましたが、僕の始まり(立ち位置)はここからです。みなさんの始まりはどんな始まりになりましたか？

「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、ゆかいなことをいっそうゆかいに」(井上ひさしさんの言葉)

この言葉は、利用者として図書館と結ぶ役割を果たす図書館員の姿勢(立ち位置)に相応しいのではと、自分に、しつくりきいてみます。二か月間お世話になった多くの方々への感謝とともにジョージとしての夏は終わりましたが、僕の始まり(立ち位置)はここからです。みなさんの始まりはどんな始まりになりましたか？

この言葉は、利用者として図書館と結ぶ役割を果たす図書館員の姿勢(立ち位置)に相応しいのではと、自分に、しつくりきいてみます。二か月間お世話になった多くの方々への感謝とともにジョージとしての夏は終わりましたが、僕の始まり(立ち位置)はここからです。みなさんの始まりはどんな始まりになりましたか？

講生 受

補 司書



図書館との

出会い

坂東 奈都子

鶴見大学図書館って、どんな図書館だろう…

私は今回の講習に通えるようになったときに、図書館に行くのが一番の楽しみでした。図書館内見学のあと数日は、毎日のように通っていました。總持寺の盆踊りの時は、途中で露店巡りを楽しんだから、図書館に向かったものなのです。

鶴見大学図書館は、そんな私を快く受け入れてくれました。授業で紹介された書籍を探したり、分からなかった事柄を調べたりして過ごしていました。授業が進むにつれて、図書館の利用方法も漸次変わっていきました。児童サービスのときは、絵本のコーナーに入り浸りでした。地元の公共図書館とは違い、対象年齢別に並べられていたので、とても探しやすい居心地がよかったです。

ときには、時間と自分の年齢を忘れて、絵本に没頭する日もありました。今では、図書館の中で、私のお気に入りの場所のひとつです。

情報検索で学んだデータベースの活用は、私の今までの生活を大きく変えてくれました。こんなことまで分かるのかと、使用するたびに自分が賢くなったような気がしていました。また、ネットの情報から、紙媒体のレファレンス資料で確認することを覚え、調べるのが楽しいと感じました。

二か月弱の講習は、思っていたよりも大変でした。それをなんとか乗り切れたのは、一緒に学んだ受講生の皆さんがそばにいてくれたのはもちろん、図書館も私を支えてくれたからだと思います。

図書館の魅力を、いろいろな視点から教えてくださった先生方には、本当に感謝しています。また、事務の方々や、清掃・警備の皆様、本当にお世話になりました。最後に、私の質問に丁寧に答えてくれた図書館員の皆様、そして、主婦である私を家で支えて応援してくれた家族にも感謝しつつ、私は、私がそうであったように、利用することで人生観が変わるような素敵な図書館で働く図書館員になりたいと、心から思いました。

講生 受

補 司書



講習を終えて

― 鶴見の夏 ―

雲居 雅代

鶴見は、私が生まれ育った町で、早く亡くなった母との思い出の町でもあります。開講式で久しぶりに鶴見を訪れて、鶴見駅やガード下、商店街を見て懐かしい気持ちになりました。小学生の時に転居したので、鶴見大学や總持寺とはご縁がありませんでしたが、本山と呼んでいたことを思い出しました。今回、司書補講習を鶴見大学で受けさせていただき、鶴見に対する愛着が深まりました。

この講習では、個性的で熱意のある講師の先生方から業務に必要な知識や技術について学ぶことができました。図書館が単なる資料提供の場だけではなく、人をつなぐコミュニケーションの場であるということ、著作権法や電子書籍について理解を深めることができ

り深い理解につとめようと思います。自分の性格を見直すきっかけにもなりました。この夏は例年になく、猛暑とのことでしたが、夢をみていたのかと思えるほどの速さで、暑さもあまり感じませんでした。講義や課題の内容の理解や帰宅してからのレポート作成など大変なことはいろいろありましたが、一緒に講義を受ける仲間がいたことで、全日程出席することができました。講師の先生方をはじめ、鶴見大学の皆さま、職場の仲間、そして家族に深く感謝いたします。

私は、公立図書館付属の図書室に勤務しています。小さな図書室です。業務は多岐にわたり、利用者との距離も非常に近いです。利用者へのサービスを高めるためには、きちんとした知識が必要だと感じていましたが、受講を決意するまでには時間がかかりました。そんな私の背中を押してく

れたのは、サポートするから行ってらっしゃいと言ってくれた職場の仲間と家族でした。

先生方の講義を思い出しながら、笑顔で仕事を続けていきたいと思

たこと、私にとつて大きな収穫になりました。特に電子書籍について、利便性が目につき、疑問に感じていましたが、既存のサービスより進化したサービスを提供できる可能性を持っていると学び、認識が変わりました。いろいろなことに興味を持ち、またその知識を選び好みしないで、よ

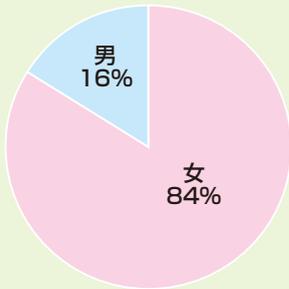
思っています。

アンケート

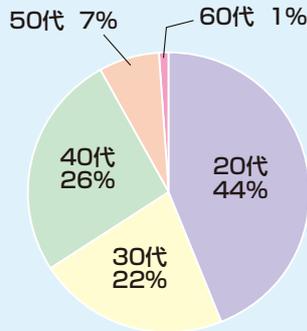
◆平成25年度司書講習アンケート集計結果◆

(回答数/受講数=127名/147名)

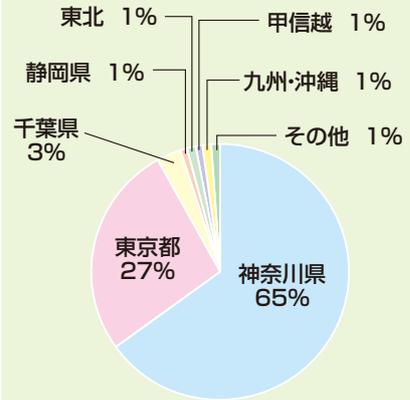
男女別データ



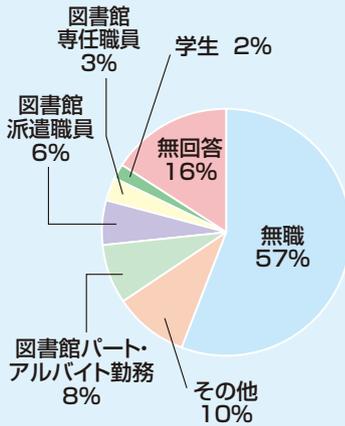
年齢別データ



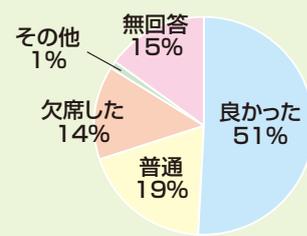
出身県別データ



職業別データ



特別講演会について

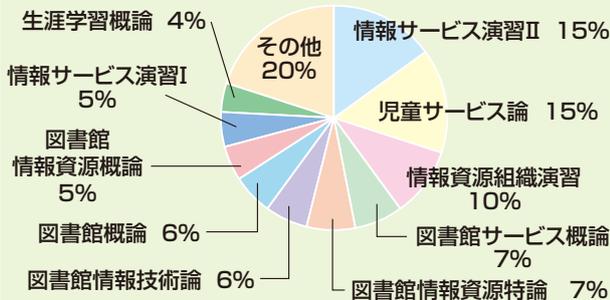


- 主な理由
- 良かった…
 - 国立国会図書館の具体的な仕事内容など、普段聴くことのできない内容で、非常に貴重な講演でした。
 - 普通…
 - 政治に関係した仕事があることを、改めて学ばせていただきました。

感想

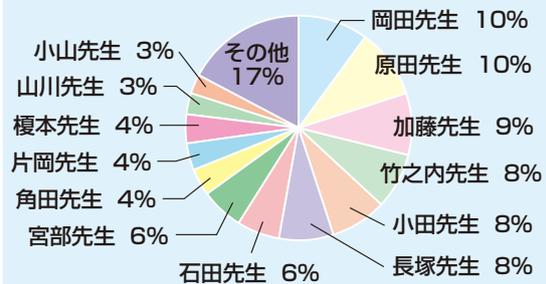
- 主な意見
- 鶴見大学会館へのアクセスが非常に良く、通学の大きな助けとなりました。
 - こんなに勉強するとは思っていませんでした。本当に大変でしたが、忘れられない夏になりました。
 - PC初心者講習を受けていたので、課題の作成時に大変役立った。参加していなければ途中で挫折してたと思う。
 - 図書館は設備が充実しており、特に閲覧席は大変快適でした。
 - 司書の仕事は奥が深く、常に勉強が必要だと感じました。
 - 図書館の演習ではインターネットのつながるパソコンの環境を整えて欲しかった。

印象に残った科目(複数回答)



- 主な理由
- 情報サービス演習II…
 - 課題が多く厳しい科目でしたが、講習の集大成として達成感が得られました。
 - 児童サービス論…
 - 世界中の絵本について学ぶことができ、勉強になったし楽しかった。
 - 情報資源組織演習…
 - 分かり易い講義で、楽しく学ぶことができました。
 - 図書館サービス概論…
 - 先生の工夫を凝らした資料と授業で、理解しやすかった。

印象に残った講師(複数回答)

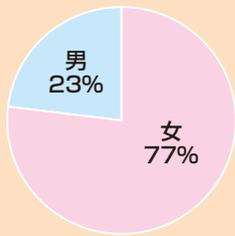


- 主な理由
- 岡田先生…
 - 先生の授業は楽しみでした。その後の分類目録の授業が助かりました。
 - 原田先生…
 - 私達の質問に対し、熱心に返してくださったのが印象的でした。
 - 加藤先生…
 - エネルギー豊かで豊富な知識と経験をおしみにくく与えて下さいました。
 - 竹之内先生…
 - 授業もわかりやすく、授業スピードも初心者向きで配慮がいき届いていた。
 - 小田先生…
 - 試験のあとに答え合わせと復習があり、親切だなと思った。

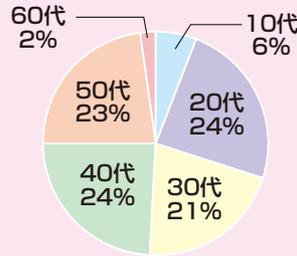
アンケート

◆平成25年度司書補講習アンケート集計結果◆ (回答数/受講数=41名/47名)

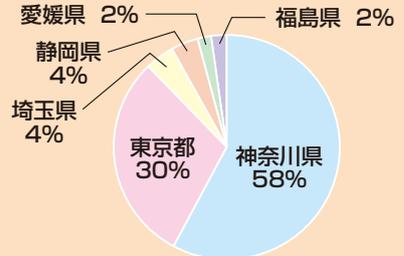
男女別データ



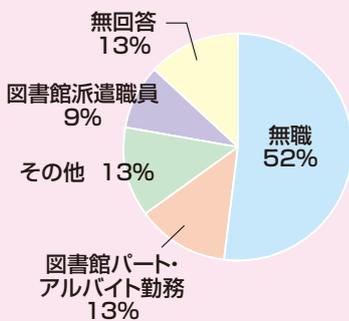
年齢別データ



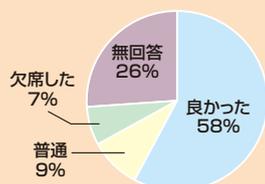
出身県別データ



職業別データ



特別講演会について

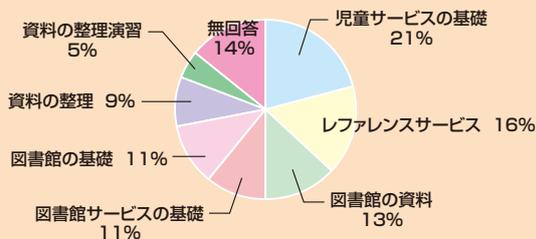


- 主な理由
- 良かった…
 - ・国立国会図書館を身近に感じられる、わかりやすい内容でした。
 - ・良い刺激を受けました。学習、仕事に対するモチベーションが上がりました。
 - 普通…
 - ・公共図書館と国会図書館の関係をもう少し聞きたかった。

感想

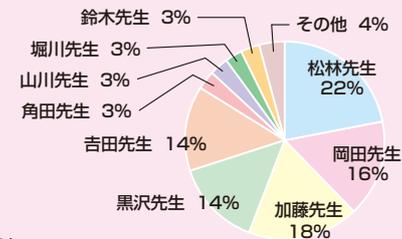
- 主な意見
- ・施設はどこも清潔で、いつも快適でした。
 - ・PC 初心者講習は、なかなか聞きにくい事など、気軽に質問できてとても良かった。
 - ・スケジュールがきつくて大変でしたが日々の業務に役立つことばかりだったのでとても楽しかったです。
 - ・これだけ大人になって学習することもなかなかないので貴重な経験ができて良かったです。社会に出て学習し続ける必要性をとても感じる2ヶ月でした。
 - ・科目の中には、重複している部分があったので、効率よく講習を受けられるようにして欲しいと思いました。
 - ・講習期間中、事務局の方々、先生方、図書館の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

印象に残った科目(複数回答)



- 主な理由
- ・児童サービスの基礎…多くの人の前で絵本を読む経験ができてよかった。
 - ・レファレンスサービス…実物を手にして見ることの大切さ、探すことの楽しさを知りました。
 - ・図書館の資料…ここで学ばねば、一生触れることがなかったかもしれない授業内容でした。
 - ・図書館サービスの基礎…実務に直結する内容で、とても勉強になりました。

印象に残った講師(複数回答)



- 主な理由
- 松林先生…受講生のことを良く考えてくださっている印象を受け、とてもうれしく思いました。
 - 岡田先生…話が面白く、説明がとても理解しやすいだったのでとても楽しい授業でした。
 - 加藤先生…図書館の良い部分だけではなく、苦しい現状をも合わせて教えてもらい大変参考になった。
 - 黒沢先生…授業が楽しかったです。さすが児童サービスの先生だと思いました。
 - 吉田先生…少ない時間で求めるものが多かったが、成長できたような気がする。

■司書・司書補講習の歩み■

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29年(1954)の開講以来、今年で60年目を迎えました。その間、著名な多くの先生方のご指導の下、優秀な修了生を輩出し、本学の講習は成長してまいりました。そして、開設時の昭和29年に講習生の会として「一夏会」が発足したのがこの会報の由来となっております。

平成9年には大学会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩1分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。約60台のパソコンからなるOA研修室や80万冊にも及ぶ質の高い蔵書群を所蔵しコンピュータを駆使した高度な情報提供機能を持っている本学図書館の使用など、時代のニーズにふさわしい講習を行っております。

本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了生を誇りに今後ますますの発展を期して努力してまいります。

【司書・司書補講習受講生の皆様へ】

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。皆様のご意見を参考に、今後も社会のニーズにあった講習にしていきたいと思っております。また、この「一夏会報」を刊行するにあたり、原稿をご執筆いただきました先生並びに受講生の方々に深く感謝申し上げます。

特に今年の2か月間は例年になく猛暑でした。暑い中お疲れ様でした。